

**第2次南アルプス市総合計画
後期基本計画・施策マネジメントシート**

作成日：令和6年 7月11日

更新日：令和6年 9月12日

政策No.	4	政策名	心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成	施策主管課	学校教育課
施策No.	28	施策名	学校教育の充実	施策主管課長名	内藤 大輔
施策関連課名		教育総務課、市立学校給食センター			

1 施策の目的と指標

(1)対象(誰、何を対象としているのか) ※人や自然資源等	市立小中学校の児童・生徒	(3)対象指標(対象の大きさを表す指標)	A 市立小学校の児童数 B 市立中学校の児童数 C	単位 人 人
(2)意図(この施策によって対象をどう変えるのか)	自立した豊かな人生を切り拓いていくために必要な「生きる力」を身に付ける	(4)成果指標(意図の達成度を表す指標)	① 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりできている」とする小中学生の割合 ② 「運動やスポーツをすることは好きである」とする小中学生の割合 ③ 「自分にはよいところがある」とする小中学生の割合 ④ 認知されたいじめの解消率	単位 %
成果指標設定の考え方	① 児童生徒の学習への取組状況を示す/意図にある「生きる力」を身に付けるためには、「主体的に取り組む態度」が重要であり、新学習指導要領で重視される「主体的・対話的で深い学び」の関連項目でもあることから、成果指標とした。 ② 児童生徒の運動意欲の高まり状況を示す/「生きる力」の1つとして体力が挙げられており、生涯にわたる運動習慣を身に付け体力づくりに取り組む前提として、体を動かすことを好きであることが最も重要であることから、成果指標とした。 ③ 児童生徒の自己肯定感の高まり状況を示す/自分のよいところを知り、自覚することで、それを生かして人生を切り拓くことができるので、成果指標とした。 ④ 児童生徒が楽しく学校生活を送るための取組状況を示す/安心して楽しく学校生活を送る状況にあることで、必要な「生きる力」を身に付ける活動が充実するので、成果指標とした。	成果指標設定の理由		
成果指標の測定方法 (どのように実績値を把握するか)	① 全国学力・学習状況調査『学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりできている』において、「あてはまる」または「どちらかというにあてはまる」と回答した小中学生の割合(調査は毎年、小学校6年生と中学校3年生を対象としている) ② 全国体力・運動能力、運動習慣等調査『運動やスポーツをすることは好きである』において、「好き」と回答した小中学生の割合(調査は毎年、小学校5年生と中学校2年生を対象としている) ③ 全国学力・学習状況調査『自分にはよいところがある』において、「あてはまる」または「どちらかというにあてはまる」と回答した小中学生の割合(調査は毎年、小学校6年生と中学校3年生を対象としている) ④ 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査(文科省)において、認知されたいじめが、指導後に3か月以上見られなくなった件数の割合	どのよう		

2 指標等の推移

指標名	単位	数値区分	前期基本計画				後期基本計画					
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
A 市立小学校の児童数	人	見込み値					3,775	3,729	3,660	3,577	3,494	3,461
		実績値	4,298	4,182	4,042	3,892	3,775	3,714	3,652	3,594	3,546	
B 市立中学校の児童数	人	見込み値					2,142	2,057	2,013	1,978	1,965	1,870
		実績値	2,299	2,267	2,204	2,175	2,142	2,034	1,969	1,926	1,922	
C		見込み値										
		実績値										
① 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりできている」とする小中学生の割合	%	目標値	-	-	-	-	-	79.1	79.6	80.1	80.6	81.1
		実績値	66.9	69.1	66.7	80.0	78.2	※未実施	80.9	78.7	82.8	
② 「運動やスポーツをすることは好きである」とする小中学生の割合	%	目標値	-	-	-	-	-	68.0	68.5	69.0	69.5	70.0
		実績値	62.7	-	63.7	66.3	58.6	※未実施	59.2	57.1	61.9	
③ 「自分にはよいところがある」とする小中学生の割合	%	目標値	-	-	-	-	-	81.0	81.5	82.0	82.5	83.0
		実績値	75.7	77.2	74.5	85.8	80.5	※未実施	81.6	77.5	84.8	
④ 認知されたいじめの解消率	%	目標値	91.2	91.6	92.0	92.4	92.8	99.6	99.6	99.6	99.6	99.6
		実績値	91.2	96.8	98.8	99.6	99.8	95.2	98.8	99.5	98.0	

目標設定の考え方・理由(可能性と必然性)

- 過去5年間の経過を見ると、年度によるばらつきがみられるものの、ここ2年間は70%台後半以上の数値となっている。成り行き値は読みにくい、特に取組がない場合は、最寄りの2年間の平均値(79.1%)が続くと考えた。目標値は、この平均値を基準として、その数値を毎年0.5%ずつ向上させることとした。
- 過去の経過を見ると、徐々に向上する傾向があり、しかも、全国平均(毎年約60%)を常に上回って、その差を広げている。成り行き値は、過去のデータ数が少ないため非常に不確実であるが、全国平均が毎年60%前後で止まっていることから、今後はこれまでものようには伸びないと考え、これまでの平均上昇値(1.2%)で令和元年度の数値を予想し(67.5%)、それ以降は元年度の数値が続くと考えた。R6年の目標値は全国平均よりも10%良い70%とし、毎年0.5%ずつ向上させることとした。
- 過去5年間の経過を見ると、年度によるばらつきがみられること、国の平均値とほぼ同等であることから、過去5年間の平均値(78.7%)を算出し、特に取組がない場合の成り行き値と続くと考えた。目標値は、令和元年度の値を基準として、その数値を毎年0.5%ずつ向上させることとした。
- これまでの徹底した取組で、数値は年度ごとに向上し、目標値を超える高い成果を上げている。今後特に取組をしない場合には、これまでと同等の状況が続くと考えて、過去4年間の平均値である96.6%を成り行き値とした。目標値は、これまでの最高値でかつ直近の値である平成30年度の数値(99.8%)を維持することとした。

3 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
・児童生徒の規則正しい生活習慣を確立する(家庭)。 ・家庭学習を充実させる(家庭)。 ・家庭・地域・学校が情報を共有する。 ・PTA活動、登下校の見守りなどの学校ボランティア活動に積極的に参加する(家庭・地域)。	・教師の指導力を向上するための支援(研修、情報提供、訪問による指導等)を行う。 ・学校の人的・物的教育環境を整備する。 ・家庭・地域へ情報を発信し、連携する。

4 施策の状況変化・住民意見等 ※目標設定の前提とした後期基本計画策定時点の状況変化・住民意見等を記載しています。

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～R6年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
・新学習指導要領がR2年度(中学校は3年度)から完全実施になることで、新しい教育内容やICTの導入が進む。 ・児童生徒数が徐々に減少し、学校の小規模化が進行する。 ・25人学級などの少人数学級が推進される(知事公約)。 ・特別な支援を要する児童生徒が増加する。 ・教職員の働き方改革が推進され、働く場の機能向上が図られる。 ・核家族化がさらに進行する。	・小中学校の教育の内容に「満足している」と回答した市民アンケートの割合は、30%前後である。 ・市民アンケート自由意見として次のようなものがあった。 ○日本の教育は時代に合わない内容が多い、改革を進めるべき。 ○発達障害のある子供への支援体制を充実させてほしい。 ○先生を増やして、一人の先生が見る子供の数を減らすべき。 ・校長会等からの要望として、職員の増員、ICT環境の充実等があげられている。

5 予算等の推移

※当初予算。骨格予算の年度は6月補正後

区分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
関連事業本数	182	180	183	186	169
関連事業予算額(単位:千円)	1,519,732	1,555,320	1,579,770	1,772,778	1,810,090
国庫支出金	2,180	2,113	7,981	7,644	7,817
県支出金	1,627	16,782	922	12,095	15,013
地方債	0	0	0	71,400	0
その他	360,981	352,595	339,832	80,809	497,941
一般財源	1,154,944	1,183,830	1,231,035	1,600,830	1,289,319

(1)目標達成度(目標値との比較)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> 目標より高い実績値だった <input type="checkbox"/> どちらかといえば目標より高い実績値だった <input type="checkbox"/> 目標どりの実績値だった <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば目標より低い実績値だった <input type="checkbox"/> 目標より低い実績値だった		成果指標①「話し合い活動を通じて、自分の考えを深める、広げる学習」(目標値+2.2)と成果指標③「自分にはよいところがある」(目標値+2.3)の2項目は目標値を若干上回っている。成果指標②「運動やスポーツが好きの実績値は61.9で、目標値69.5より落ち込んでいる(目標値-7.6)。成果指標④「いじめの解消率についても実績値は98.0で、目標値99.6より落ち込んでいる(目標値-1.6)。コロナ感染症5類移行を受け、学校行事や学校生活や授業も平常時に戻った。コロナ禍で培ったICTの活用を進めながら、体験活動や交流を行い、目標値以上になるよう計画を推進する。
(2)時系列比較(どのように変化してきたか)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した		平成30年度までは、どの成果指標も向上傾向にあった。コロナ禍に入った令和元年度以降は、数値がさがった。コロナ禍があけ、令和4年度から令和5年度若干ではあるが改善傾向みられる。成果指標①「話し合い活動を通じて、自分の考えを深める、広げる学習」については、78.7(R4)→82.8(R5)、成果指標②「運動やスポーツが好き」については、57.1(R4)→61.9(R5)、成果指標③「自分にはよいところがある」は77.5(R4)→84.8(R5)、成果指標④「いじめの解消率」については、99.5(R4)→98.0(R5)となっている。いじめについては1件であっても、丁寧に対応していく必要がある。コロナ感染症5類移行が改善の理由と考える。今後も向上につながる取り組みを進めていく。
(3)他団体比較(近隣他市、県・国との比較など)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> かなり高い成果水準である <input type="checkbox"/> どちらかといえば高い成果水準である <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ同水準である <input type="checkbox"/> どちらかといえば低い成果水準である <input type="checkbox"/> かなり低い成果水準である		成果指標①②③については、県・国と比べほぼ同等の値である。成果指標④については国と比べ高い。成果指標①「話し合い活動を通じて、自分の考えを深める、広げる学習」について(82.8)は、国80.8・県83.6と国の値よりは若干高いが、県の値よりは若干低い。成果指標②「運動やスポーツが好き」については(61.9)は、目標値69.0より大きく落ち込んでいるが、国58.2・県58.7と比べて若干高い。成果指標③「自分にはよいところがある」について(84.8)も、国81.8・県83.8と比べて若干高い。成果指標④「いじめの解消率」について98.0と、国80.1(R4)と比べ、例年、高い解消率となっている。コロナ感染症5類移行の後、交流も体験も活発にできるようになったので、新しい実践方法を工夫・共有し、値の向上につなげていく。

7 基本計画期間における施策方針

(1)施策の基本方針
<ul style="list-style-type: none"> ・見える学力だけではなく、非認知能力の育成や体づくり、心を育てることなどを大切にし、これらをバランスよくはぐくんでいく教育が展開されるよう取り組む。 ・教職員の力量を高めて授業の質を向上させるとともに、児童生徒・保護者のニーズを把握した一人ひとりを大切に教育を推進する。 ・児童生徒、教職員が充実した授業や諸活動を行えるよう、人的・物的教育環境を整える。

8 施策の目標達成のための基本事業の今年度(R6年度)の取組(事務事業)状況・今後の課題と次年度(R7年度)の方針

基本事業	今年度(R6)の取組(事務事業)状況及び今後の課題	次年度(R7)の方針
1 教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・普通教室のWi-Fi、1人1台端末の環境が整い、授業での活用を進めているが、理科室等の特別教室(未整備2/13市、一部導入2市)や体育館(未整備4/13市)のWi-Fi環境はまだ整っていない。今後の導入を見据え、体育館・特別教室等のWi-Fi環境の計画、今後の端末買い換えについての計画づくりを行う。 ・特別なニーズをもつ子どもが多く在籍している。県で任用されている教職員だけでは学校活動が滞っている現状がある。現状の様子をとらえ、人的環境を整えていく。 ・来年度中学校で教科書が改訂となる。教師用指導書や教師用教科書等準備を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別教室・体育館へのWi-Fi設置の設計を行い、8年度の設置へ向けての予算づくりを行う。1人1台端末の共同調達の時期にもなる。近隣の他市町の状況確認を行う。 ・学校で現在必要な、学力支援スタッフ等の国や県の補助金が削減される中で、どのような人材が学校内に必要かを検討し、適正な配置を行う。
2 体験活動や道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、コロナ感染症が5類に移行し、本年度は平常時の学校活動が行えている。修学旅行や林間学校などの校外行事は例年通りの計画で行え、小学校の運動会も春開催も増えてきている。道徳授業地域公開については、保護者等への授業参観を全小中学校で行っているが、まだ地域の方々から自由参観の状況にはない。今後地域連携を進める中で、学校の特色を活かしながら、座学だけでは学習できない体験活動を進める限り取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校では保護者や地域の協力を得ながら、さらに地域の特色を活かした体験活動を進めると必要がある。道徳授業地域公開については、保護者のみならず、地域の方々にも広く周知をし、地域の方々に学校へ来ていただく機会につなげていく。
3 教員の授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・Wi-Fi環境と1人1台端末が整い、授業での活用も進んでいる。さらに有効なICTの活用のための、教職員の研修機会の提供、また情報共有を行う環境が必要となっている。 ・市内の3校(白根百田小・小笠原小・楡形中)を研究指定校として、公開授業研究会や拡大校内研究会を行い、授業参観、授業の協議会、また講演会等も行い、教職員のICTも含めた授業力向上を図り、市内の学校にその成果を共有していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員それぞれのICT活用能力に合わせた研修を行い、授業での有効活用につなげる。また各校の実践事例を集め、市内の学校で共有しながら、教職員のICTスキルの上につなげる。 ・公開授業研究会や拡大校内研究会等に、市内の教職員を制限なく参加を呼びかけられるようになった。コロナ禍で培ったリモート等の工夫は同時に進めながら、実際の授業を参観し、討論を行い、講演を聞くことができ、多くの教職員が学ぶ研究会にする。
4 地域と連携した教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育推進協議会を設置し、地域の特色を生かした小中一貫教育を進めている。白根巨摩、楡形(2地区:4年目)、白根御勅使、甲西(2地区:3年目) ・小中一貫校の良さを生かしたコミュニティースクール(CS)として、地域コーディネーターを入れながら、地域と学校が関わり方等、研究を進めている。八田・芦安(2地区:3年目)若草(初年度) 	<ul style="list-style-type: none"> ・八田、芦安、若草地区以外で、白根巨摩、楡形、白根御勅使、甲西地区はCSの設置に向けて具体的な検討を行う。 ・CSの導入に伴い、地域と連携した学校行事の在り方や部活動の地域移行に向けた準備を生涯学習課と連携し推進していく。